

手話について

市立 小学校
×年×組 A B C D E

私は、地域に住む障害を持つ人について知るため、手話を調べました。

手話とは、音や声を使わずに身振り手振りでいろいろな事を伝える方法です。パントマイムのようなジェスチャーとは違い、手話用の文法があるそうです。

日本語のひらがなと同じように、指文字という五十音に対応した手話があります。あ行の5文字と、『か、さ、た、な、は、ま、や、ら、わ』は、日本の学校の先生がアメリカの偉人であるヘレンケラーに教わり、アメリカの指文字からとったそうです。なので『あ』は『a』、『い』は『i』などと同じ表し方をするそうです。

手話では指文字以外にたくさんの単語があります。『山』や『川』など昔からある手話もあれば、『携帯電話』や『パソコン』など時代と共に生れた手話もたくさんあります。また、『掃除』や『洗濯』などの手話は、昔は手で洗う表現だったそうですが、最近は掃除機や洗濯機で洗う表現をするそうです。

このように手話には歴史と文化があります。そして、その手話を使う耳の聴こえない人たちにも歴史や文化があります。

昔、貧乏人とお金持ちとの差が大きかった時代には、お金が無い家に生れた耳が聞こえない子供はほとんど学校には行けませんでした。なので、大人が最近になって小学校や中学校に通っていることもあるそうです。本当に50歳の方が10歳の子供と一緒に算数や国語を勉強しているそうです。こういう人は、今まで何十年も字を読んだり書いたりうまくできなかつたので、地域で大変な思いをしてきました。そして、同じような人が私達のまわりにも住んでいるかもしれせん。あるいは、おじいちゃんやおばあちゃんがもしかするとちゃんと勉強するチャンスがなかつたかもしれせん。

耳が聞こえない人たちはみんな勉強ができないわけではありませんでした。耳が聞こえなくても大学を卒業している人はたくさんいるそうです。薬剤師など難しい資格をとって患者さんのために働いている人もいるそうです。テレビや映画に出て活躍している人もたくさんいるそうです。

耳が聞こえない人のことを『聴覚障害者』や『ろうあ者』などと言います。昔は『おし・つんぼ』などと言って差別していたそうです。今でもその差別が消えたわけではありせんが、薄れていっているそうです。聴こえないというハンデはありますが、一人一人が人間として生きています。そして聴こえないことを隠していくのではなく、手話など独特の文化をつくってきました。その手話には深い歴史が刻まれているそうです。今回の発表を聞いたみなさんも、手話やろう者についてもうすこし知ってみてはいかがでしょうか。

参考

手話@ニシケン： てことば： <http://www.nes-w.net/tekotoba/>： 2005年

山本おさむ： 我が指のオーケストラ： 秋田文庫： 1991年